

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	授業に意欲的に取り組む生徒が多く、発言も多い。自分の意見や感想を時間内に書けるが、「〇〇が分かった。」など単調な文章になってしまいがちである。そのためもう少し具体的にどう感じたのか、捉えたのかについて書けるように継続的な指導を行いたい。また、クラス全員に向けてスピーチをし、評価し合うことが出来た。その中で目録や話す速度など聞き手を意識する必要があると感じた。漢字の定着にも課題がある。	単元の初回と最後に書く振り返りをクラスで共有する時間を設けて他者の考えに触れると同時に、書き方や表現の仕方を知る機会をつくる。振り返りを回収して書き方のコメントも適宜行う。「話すこと」については日頃のグループ活動から伝え方を意識して活動してもらうよう声かけを行う。漢字については定期考査などの指定範囲の中で答えられない生徒もいるため、漢字小テストを実施し定着を図る。	
社会	・社会科の学習内容に対し、興味をもって意欲的に授業に取り組むことができる生徒が多い。しかし、歴史と地理で好き嫌いが分かれていたり、授業の内容を復習する習慣がないため定期考査で思うような点数がとれなかったり、課題もある。 ・タブレットを使用したまとめ学習は得意な生徒が多い。速度にはばらつきがみられるため、時間配分を明確に提示することが必要である。	・授業で理解できた内容を知識として定着させるために、こまめに宿題を出す。また、教え合う活動を通して生徒が身に付けた知識をアウトプットする機会を取り入れていく。 ・タブレットを使ったまとめ学習や発表の機会を積極的に取り入れていく。時間配分を可視化して生徒に伝えたり、まとめ学習に入れる必要項目を提示したりすることで時間がかかりすぎないように意識させる。	
数学	授業に意欲的に取り組み、積極的な発言も多い。小学校の算数の学習が定着していない生徒がいる。文章問題などの数学的な思考を使う問題の正答率が低い。都の調査の結果からは、「授業がわかる・数学が得意である」という割合は高いので、授業では理解できていても定期考査では、忘れてしまっていて、問題に対応できていないと考えられる。また、「繰り返し学習をしている」という割合が他と比べて低くなっている。	前時の振り返りや、小テスト、課題等で繰り返し学習に取り組めるように計画する。また、ICT等を利用して、視覚的に理解させたり、自分の考えを発表させたりすることでより高い定着を図る。また、文章問題では分かっていること、求めることを丁寧に解説し、問題の意味をしっかりとらえさせることに重点的に取り組んでいく。	
理科	実験・観察に対して意欲的に取り組む生徒が全体的に多い。知識の定着に関しては、家庭学習の習慣が身につけている生徒とそうでない生徒で差がある。また、計算を利用したり、結果をグラフなどにまとめることを苦手としている生徒もいる。	・毎回の授業で前回の復習から入り、既習事項の確認を徹底する。 ・授業の中でワークやノートを利用する機会を増やし、知識の定着を図る。 ・理解度に差が出ている内容については、協働作業を取り入れ、さらに個別で声をかけるようにする。 ・ICT機器を活用し、知識の定着を図るだけでなく、学習内容の理解度を高めていく。	
音楽	・活発に意見交換を行える生徒が多い。音楽の学習に対する意識は高い。 ・話は良く聞いているように見えるが、理解力に課題が残る。また、基礎的な学習に個人差が見られる。 ・鑑賞の単元において、よく考え、自分の思いを言葉にすることが苦手。	・学習に対する意欲を大切に、体験、グループ活動、話し合いを上手に取り入れ、学び合いができるようにする。 ・学習の理解の定着のために、発問の工夫や、小テストで、確認を行う。 ・鑑賞においては、考えさせる場面の工夫や、発表の仕方も考えて、自分の思いをより具体的に伝えられるようにする。	
美術	全体的に美術を楽しむ姿勢がみられる。楽しさが先行し授業規律が乱れてしまうこともあったが、多くの生徒が改善してより良い学習環境を作ろうとする姿勢がみられ準備・片付けなどが素早くなくなった。美術的な課題としては自分で豊かに主題を見つけ作品に反映することが難しく、アイデアスケッチに時間がかかってしまい計画通りに進まないことが課題である。	生徒の発達段階や状況を適切に判断し生徒の実態に応じた単元を計画する。発想を豊かに出来るよう細かく相互鑑賞の時間を設定するとともにICTを積極的に活用していく。	
保健体育	授業規律は確立されてきたが、まだ時間を守れない生徒や、メリハリが付けられない生徒が見られる。授業に意欲的に取り組もうとする生徒が多く見られるが、自己の課題を見つけ課題解決のために主体的に活動することは、まだ不十分である。	体育委員をリーダーとして育成し、体育委員中心に主体的に活動できるようにする。授業の目的、内容・流れを明確にし、見通しをもたせることにより、生徒が自ら活動できるようにする。また、授業の中で生徒同士が話し合った教え合ったりする時間を設け、主体的に活動できるようにする。 新型コロナウイルス感染症予防については、引き続き徹底していきたい。	
技術・家庭	【技術】全体的に落ち着きまじめに取り組んでいる。総合ノートの活用により予習的に進めている部分があるなか、予習、復習に取り組む姿勢に差がある生徒がいる。遅れ気味の生徒への呼びかけが必要である。 【家庭】授業に取り組む姿勢は意欲的であり、発言する生徒も多い。ただ、生活経験に差があり、自分の食生活と授業内容を関連づけられない生徒もいる。また、知識定着のために授業内での振り返りを充実させる必要がある。	【技術】領域別実習を通し、グループごとによる進度に統一性をもち取り組ませしていく。 【家庭】実物を用いて、実際に触れて具体的に指導するとともに、班での意見交換等により食について考える機会を設けていく。食について様々な面から関連づけて授業に取り入れる。	
外国語(英語)	全体的に意欲的に学ぶ姿勢が定着している。現段階の学習内容では苦手と感じている生徒の割合は低い。 次の事が課題であると考える ・書く事への自信がまだもてない生徒が多い ・能力の高い生徒も基礎が必要な生徒と一緒に力をつける授業内容の計画 ・ICTを生徒が活用して個々の課題解決に取り組む家庭学習の定着を図る。	・スピーキング活動から書くことへの指導を行い、話すことから書くことへの力をつけていく (1minute chat・スベコン・英作文等) ・ペアワークで自然と教え合える活動をする (弾丸リーディング、1minute chat) ・現在の家庭学習内容に加えて、自分で学ぼうとする課題を作る (トリプルホームワーク・Retelling・Recitation・活動、検定へのチャレンジ)	
道徳	話し合いや意見を発表することに抵抗がある生徒は少ない。ホワイトボードを活用して、班での話し合いを積極的に行うことができた。しかし、自分から積極的に発言できる生徒ばかりではないので、様々な意見を取り入れていくための手立ても必要である。	・意見を発表しにくいと感じている生徒が、自分の意見を周りに伝える手立てとしてICTの活用を行っていく。ジャムボードなど他教科でも使用しているアプリを使い、色々な意見を授業で紹介していく。 ・話し合いや発表の時間だけでなく、ワークを使った個人の振り返りの時間も大切にしていく。	
総合的な学習の時間	1学期は農園活動と、職業についての学習を行った。職業の学習では、班で協働して「人生ゲーム」の作成を行い、活発に意見交換を行いながら学び合い、楽しんで活動ができていた。農園活動・職業調べにおいて、校内の1つのテーマであるSDGsとの関連付けができなかったことや、授業時間内に完成ができなかった班が多く、見通しが甘かったことが課題である。	3学期の職場体験に向けての活動では、SDGsの視点を取り入れた学習を展開していく。また、見通しを持った活動ができるように指導していくとともに、指導計画もより綿密にたてていく。また、2学期から3学期にかけて行う、農園活動においても職業やSDGsと関連付けて進めていく。	